

こんな**火災**が発生しています



落雷火災

落雷による火災被害を最小限に防ぐために

CASE 1

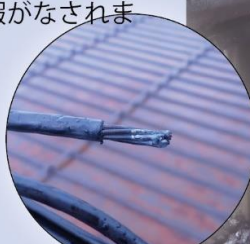
光ケーブルの支持ワイヤーを介して屋根裏から出火した火災

■配電線に落雷し、大電流が配電線を通して住宅に引き込まれている光ケーブルを介し、外壁などに流れたことにより断熱材に着火し、屋根裏を焼損したものの。

これを「**侵入雷（間接雷）**」といいます

この火災では、出火場所が屋根裏だったこともあり、大きな落雷音が確認された時刻から約1時間半後に発見・通報がなされました。

このようなケースを未然に防ぐことは難しいですが、落雷の直後は分電盤や家電製品などの異常や、室内が焦げ臭いかなどを確認することがその後の火災の被害を小さくするポイントです。



熱で溶融し断線した支持ワイヤー



配電線から建物に雷電流が浸入した痕跡



出火した屋根裏の状況

CASE 2

屋根に直接落雷した火災

■雷が直接建物の**屋根**に落雷し、直後に出火した事例です。

ケース1同様、周辺では大きな雷鳴が確認されており、停電直後に近隣の人により発見され、**外壁**を部分的に焼損したほか、室内にあった多数の**電化製品**が故障する被害が発生しました。



分電盤

侵入した電流により焼損した機器

これは「**直接雷**」と言われ、周りに高い木や工作物がない住宅街では、このように住宅に直接落雷することがあります。



TVブースター

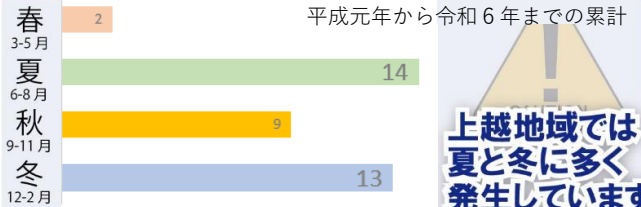


テレビのケーブル



コンセント

管内における季節ごとの落雷火災発生状況



上越地域では夏と冬に多く発生しています

被害を少なくするポイント

- 分電盤に避雷器を設置する
- 雷鳴が聞こえ始めたらコンセントを抜く
- 近くで雷が落ちた時は家の中に異常がないか確認